

当直帯の輸血検査

吉田純平

オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社

IH テクニカルソリューションセンター

輸血医療は多くの医療機関で昼夜を問わず行われ、患者の生命維持に重要な役割を果たしている。血液型や不規則抗体に関する知見も蓄積され、現在では多くの施設において安全な輸血医療を行う体制が整ってきた。一方、ABO 血液型検査におけるオモテ・ウラ不一致や弱反応、不規則抗体検査・交差適合試験における陽性反応などの異常結果は患者検体に起因して発生し得るものであり、その発生を回避することはできない。当直帯における輸血検査は緊急性の高いケースも多い上、非専従者が担当することも多く、このような異常結果に遭遇した場合において検査の進め方や製剤選択に苦慮することがある。本講演では主に非専従者を対象とし、輸血検査の基礎的な事項(ABO および Rh 血液型、不規則抗体)のリマインドと、特に当直帯において安全かつ確実に輸血検査を行うためのポイントをお伝えしたい。後者において重要なのは、①各種指針やガイドラインにおける緊急時の対応を病院全体で周知しコンセンサスを得ておくこと②緊急性の高いケースにおいて、迷わず製剤を選択できるような体制を日頃より構築しておくこと③機器・器具や試薬に起因する異常反応を防止するため、検査実施環境と試薬・器具の精度管理を確実にこなしておくことである。本内容が安全な輸血検査体制の構築、非専従者の輸血検査における精神的負担軽減の一助となれば幸いである。

連絡先：お客様サポートセンター

(0120-03-6527)